

剣（つるぎ）を打ちかえて鋤（すき）とし、・・・

和田 喜彦	経済学部助教授
奨励者紹介【わだ・よしひこ】	【研究テーマ】 エコロジー経済学、エコロジカル・フットプリント分析

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。

彼らは剣を打ち直して鋤とし

槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣を上げず

もはや戦うことを学ばない。

（イザヤ書 二章四節）

スピリットを現代にどう活かすか

今週は、同志社スピリット・ウィークです。同志社は、一三一年前に新島襄によって創られ、その後、創立の精神（スピリット）が多くの人びとの努力によって受け継がれ、磨かれていきました。その伝統と歴史に思いを馳せるための一週間です。

今週、特に若い皆さんにお願いしたいことがあります。それは、同志社の創立者、あるいは継承者たちが現世に語りかけていることは何か、一人ひとりが考える時を持っていただきたいと思います。つまり、同志社の創立の精神や、その精神的基盤であるキリスト教が、現在同志社に集う私たちにとってどのような意味合いを持っているのか、我々が同志社設立の精神をこの現実の世の中にどのように活かしていくべきなのかを考える時間を持ってほしいと思います。今日の私の拙い話が、そのための何らかのきっかけとなれば幸いです。

カレッジソングを作詞したヴォーリス

一八七五（明治八）年十一月二十九日に同志社英学校が開校しました。学生はたった八人。教員は新島襄とJ・D・デイヴィスの二人。新島の心からの熱い祈りをもって第一回目の講義が始まったと伝えられています。

当時、校歌・大学歌のようなものはありませんでした。学生たちの間から、校歌をぜひとも作ってほしいという願いが次第に強くなっていきました。設立から三十三年後、すなわち一九〇八（明治四十一年）年、その夢が実現しました。同志社カレッジソングが制定されたのです。一八九〇年に新島が亡くなってから十八年後のことです。このカレッジソングは、制定後九十八年を経過した現在でも脈々と歌い続けられ、同志社スピリットを継承する役割を果たしていると思います。

作詞は、ウィリアム・メレル・ヴォーリスです。ヴォーリスは、アメリカで生まれ、教育を受けて、一九〇五年にキリスト教の宣教師として来日された方です。新島が亡くなったのが、一八九〇年ですので新島が亡くなってから十五年経て来日されたということで、お互いに面識はありません。ヴォーリスは、宣教活動以外でも幅広く活躍した方です。一般的には、建築家としての仕事がよく知られています。関西を中心に、全国で一五〇〇以上の学校、教会、礼拝堂、図書館、ホテル、デパートなどの近代洋風建築の設計を手がけました。質の高い有名な建築物が多く残っており、同志社でも、今出川キャンパスのいくつかの建物がヴォーリスの設計によります。たとえば、啓明館、アーモスト館などです。彼は、実業家としても有名です。「メンソレータム」という塗り薬（軟膏）がありますが、明治期にこれを輸入販売する「近江兄弟社」という会社を創業しました。また、近江兄弟社学園の幼稚園、小中学校や結核療養所（サナトリウム）をつくり、教育・医療活動にも心血を注ぎました。現在では高校も設置されています。

彼は、文学的センスにも秀でていて、讃美歌の作詞も手がけています。その才能が評判を呼び、また同志社でも講義を受け持たれていたということもあり、同志社のカレッジソングの作詞者として推薦されたという経緯があります。

二つの歌にこめられた四つの精神

本日配っていただいたのはカレッジソング、そして『讃美歌』（第一編）の二三六番です。カレッジソングとこの讃美歌の間にある二つの共通点に注目していただきたいと思います。

共通点の一つ目は、ヴォーリスの作詞であるということ、そして二つ目は、作詞の時期が共に一九〇八年であるということです。ヴォーリス来日四年目のことです。一九〇八年という年は、日露戦争終結の四年後、韓国併合の二年前です。もう少し世界に目を向けると、第一次世界大戦開始の六年前ということ、当時、欧米、日本も含めて世界中で軍国主義が幅を利かせ、軍拡競争が急速に強まっていった時代です。そうした状況にヴォーリスは大変心を痛めておりました。ヴォーリスが後に日本の讃美歌に載ることとなるこの詩を京都YMC Aの宣教師に見せて、その後アメリカ平和協会の雑誌、『アドヴォケート・オブ・ピース』（平和の擁護者）誌に発表し、それが後に日本の讃美歌に取り入れられたのです。

まず、『讃美歌』二三六番を読んでみましょう（原文は英語、タイトルは、「神の国」）。

一、地の上にまことの さとりはひらけて、

ひとをばあいする おもいもさかえよ。

二、みだれしむねにも 平和をあたえて、

むさぼるころを 主よ、潔めたまえ。

三、世人のさちをも おのれのさちとし、

たがいにたすくる ころをばたまえ。

四、いくさをなげうち、みわざにいそしみ、

みかみのみやこを きずかしめたまえ。

次にカレッジソングですが、曲はドイツ民謡「ラインの守り」を使いました（そのころの宣教師の幾人かの出身校であったイェール大学の校歌のメロディーでもあります）。

ヴォーリスは歌詞の意図を次のように語っています。

「同志社の性格はその名のワンパーパス（One Purpose）です。そこに構想の根拠をおいて書き続けました。そして三節までは神のため、同志社のため祖国のためと歌いましたが、最後の第四節においては世界同胞のためと歌いました、世界的な広いもの見方が同志社には欲しい、との念願からです・・・」。

同志社 カレッジソング（原文英語。対訳：同志社女子大学元学長・児玉実英氏）

一、同志社よ、その名は一つの目的を意味する。

その学徒の精神的、肉体的に、

神のため、祖国のため、生きんという

一つの崇高な目的を。

親愛なる母校よ、同志社の学徒は、

ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。

たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
われらさまようとも、汝の教訓は、
われわれの心に永遠に生き続けることであろう。

二、われわれが同志社に来たのは、
心のより広き糧を求めてだ。
われわれは、真の目的の価値を、
新たな意味において学ぼうとし、
ここにふみとどまっているのだ。
親愛なる母校よ、われわれのつとめは、
堅き心をもって、未来に立ち向かうことである。
なぜなら同志社は、
神のため、同志社のため、また祖国のために
役立てよと、高い目的をもって
われわれに教えてきたからである。

三、戦雲がその険悪な動向を示すとき、
いく万の愛国者は、武器をもってはせ参ずる。
しかし、われわれは、
久しきにわたる平和の年月のうちに
祖国の名と名声を、いやましにしたいと願う。
親愛なる母校よ、その学徒は、その生涯を、
いつまでも神への信頼に捧げるであろう。
確固不動の目的をもって、われわれは、
たえず神のため、同志社のため、
また祖国のために、立とうとするものである。

四、われわれが生まれた国よりも
さらに広い世界といえども、
それは一つであることを、われわれは学んだ。
自己愛よりもいや高き人類愛と、奉仕の精神を
われわれは会得した。
親愛なる母校よ、その学徒は
聖なる生涯を送らんがため、励もうとしている。
重ねゆく年とともに、
神のため、同志社のため、同胞のため、
かえりみて悔いなからんがために。

私は、特に、第三節、四節に注目したいと思います。カレッジソングと先の讃美歌との共通点は、平和の実現を強く求めていたという点ではないかと思ひます。そして、「愛国」という名の下に、武力によって他国を「むさぼる」ことを戒めています。

カレッジソング、ならびにこの讃美歌にこめられた精神を四つの言葉でまとめると、①崇高な人類愛、②奉仕の精神をもって、③戦争を放棄し、④世界の平和的共存を願う、となるのではないかと思ひます。ヴォーリスが考えた、「神の国」、すなわち「神によって支配される理想の世界」とは、このような四点に集約されるのではないのでしょうか。これは、日本国憲法の平和主義の精神につながっていると思ひます。そして、同志社に連なる人びとには、そのような平和な世界を実現するという目的、すなわち同じ志 (One Purpose) を共有し、活躍してほしいと訴えているのだと思ひます。

平和の実現を求める

この思想を現代に活かそうではありませんか。ヴォーリスが現代に生きる私たちに求めているものは何でしょうか。現在、私たちの世界を見渡すと、国際的な争いや内戦が絶えることがありません。アメリカは、イラクやアフガニスタンでテロリストなどの武装勢力を根絶するという名目で、子どもを含む一般市民を殺害し続け、日本も、イラク攻撃のために自衛隊を派兵し、殺戮に手を貸し、まさに今も、後方支援と称してペルシャ湾上にて米軍に給油し続けています。イスラエルと中東のレバノンの間でも戦争は完全には終わっていません。

先月、北朝鮮が核実験を行ったと発表しました。もし発表が正しいとすれば、核兵器保有国は、アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国・インド・パキスタン・イランの八カ国に加えて、九カ国となります。イスラエルも核兵器保有疑惑国です。核兵器は世界中に約三万発も存在しています。その威力は、人類を三回も絶滅させることができると言われています。

平和憲法を掲げる日本でも、最近、外務大臣や与党の政調会長なども核保有について議論したい、などと言っています。まさに、ヴォーリスが来日したころの世界情勢と似て、軍拡の嵐が激しくなっていると言ってよいでしょう。これらの背景には、他国に眠っている石油やその他の資源をむさぼり取ろうとする欲望や、資金力や武力があれば他国の政治的交渉力を増すことができるという妄想が背景にあると思われまふ。先日、今出川のチャペルアワーでお話しされた、アフガニスタンで援助活動を続けていらっしやる中村哲先生 (医師) も、お金や武力さえあれば何でもできるという妄想は間違っている、ということ力を説いておられましたが、空爆の最中、アフガニスタンの人びとのために井戸を掘り、運河を建設するなどの仕事を続けておられる先生の言葉には、非常に重みがありました。

劣化ウラン弾の廃絶を

さてここで、あまり報道されてはいませんが非常に危険な新型兵器について注目してみたいと思ひます。それは、「劣化ウラン弾」です。これは、核爆弾のように核分裂はしませんが、放射能で人体や環境に対して長期的にダメージを与える悪魔的な兵器です。放射能を帯びた物質をばら撒くことにより人体に危害を加えるので「放射能兵器」と呼ばれることもあります。

劣化ウランとは、核燃料や核爆弾を製造するときに産み出される核のゴミです。天然ウランの中には、核分裂する「ウラン235」と核分裂しにくい「ウラン238」という二種類のウランが混在しています。分裂する方は、〇・七パーセント、分裂しない方は、九九・三パーセントという構成比です。このままでは、核分裂は非常に起こりにくいわけですが、そこで、核燃料を造るときは、分裂するウラン235の比率を、元の〇・七パーセントから三〜五パーセント程度に高めます。この作業工程を「濃縮」と呼びまふ。さらに、核爆弾を造る

ときは、比率をさらに高め、九〇パーセント程度に上げます。いずれにせよこの「濃縮」の過程で出てくるゴミが、劣化ウランです。しかし、劣化ウランとはいっても、放射線の量は、天然ウランに比べ六割程度に下がるだけで、れっきとした放射性廃棄物です。日本でも、厳重な管理が義務づけられており、三〇〇グラム以上の劣化ウランを移動させるためには、事前に内閣総理大臣の許可が必要です。

爆弾の頭に貫通体を付けると貫通力が増しますが、その貫通体に劣化ウランという危険な重金属素材を使うことをアメリカ軍は考えたのです。劣化ウランというのは非常に重くて、比重が鉛に比べて一・七倍、鉄に比べて二・五倍ですので、命中したときに物理的な衝撃力を大きくすることができます。また、硬い物質ですから、通常の貫通体では戦車の甲板を貫通することはできませんが、劣化ウランの貫通体を用いることにより、戦車の中にまで爆弾を貫通させることができます。その際、劣化ウランは摩擦熱で激しく燃えて、中にいる戦闘員をすべて完全に焼き殺すことができます。燃えた劣化ウランは酸化ウランとなって、マイクロ・ナノ単位のセラミック状の超微粒子となって大気中に飛び散ります。これが肺に入るとなかなか出すことができません。放射能を持つ劣化ウランが体内に超長期的に存在することによって二十四時間、四六時中アルファ線という放射線を浴びることになります。すなわち放射能によって、被曝するわけです（これを「内部被曝」と呼びます）。アルファ線というのは、非常に弱いものですが、至近距離から細胞のDNAを攻撃します。それによって腫瘍・癌・白血病などが引き起こされるとする説が最近有力になってきました。

劣化ウランは、湾岸戦争で約三二〇トン使われました。その後、ボスニア・コソボでも使われました。さらに二〇〇一年の米国同時多発テロをきっかけに開始されたアフガン攻撃、イラク戦争でも使われました。推計では、イラク戦争では湾岸戦争の最低でも三倍の量が使用されたといわれています。その結果は悲惨なものです。子どもたちを中心に、腫瘍・白血病・先天性障害の多発が各地で起こっています。

劣化ウランの被害は、米軍やイギリス軍の帰還兵やその家族の間にも広がっています。湾岸戦争だけでも、帰還した米軍兵士の四五パーセント、二十六万人もの人びとが劣化ウランが原因としか考えられないような健康被害を訴えています。さらに、劣化ウランを製造している工場や劣化ウラン弾の試験場周辺の住民の中にも被害を訴える人が増えています。しかし充分な対応がとられてはいません。そればかりか、劣化ウランによる被害を告発する被害者や科学者に対する身辺調査、嫌がらせ、脅迫の発生が多数報告されています。

このような非人道的な兵器の使用を放置しておいてよいわけがありません。劣化ウラン兵器を廃絶するための国際条約をつくろうという運動があります。今年の八月には広島でこの運動の国際大会が開催されました。私も行って参りましたが、世界各国から来日した人びとの使命感には勇気づけられました。私の専門はエコロジー経済学ですが、このような環境を破壊する兵器についても、エコロジー経済学のなかで取り上げてゆく必要があると考えております。

同志社スピリットを体現する一粒の種

今こそ、カレッジソングに歌われた平和主義の精神を思い起こそうではありませんか。同志社設立の精神は、いわば、地表に蒔かれた一粒の麦です。私たちは、一粒の種から育つ一粒一粒の麦でもあります。どのような麦として育つか、麦の種から育つ多くの麦をいかに育てていくのか、私たちの生き方が問われています。皆さん一人ひとりが同志社スピリットを体現する大きな麦に成長してくださることを祈ってやみません。

ひと言祈ります。

主よ、今日、若い学生の皆さんと共に、同志社スピリットについて考える機会を持つことができましたことを感謝申し上げます。学生の皆さん一人ひとりが新島が掲げ、ヴォーリズらが継承してきた同志社スピリットを体現する大きな麦に成長し、良心を体に充満させ、世の光・地の塩として活躍することができますよう、主の豊かな導きをお祈り申し上げます。

特に、「富や武力さえあれば何でもできる」という傲慢かつ短絡的な思想が世界を席卷しておりますこの時にこそ、謙虚さと分かち合い、そして相互理解を基礎とする思想が世の中に充満するための道具として私たちをお使いください。

日々の学びは、楽しい時ばかりではありません。怠惰な心に打ち勝つ忍耐力を私達にお与えください。この拙き祈りを主の御名によって御前にお捧げします。アーメン。

二〇〇六年十一月八日 同志社スピリット・ウィーク

京田辺チャペル・アワー「奨励」記録